

ASEAN グローバルプログラム に参加して

開 化 大 貴
Taiki KAIKA

環境ソリューション工学科 2年

1. はじめに

私は、ASEAN グローバルプログラムに参加にす
るにあたって、事前にベトナムとシンガポールにつ
いてのさまざまなことを調べた。ベトナムではバイ
クが、必ずといっていいほど一家に一台あることや
シンガポールでは、法律に違反した場合の罰金がす
ごく厳しいという知識を得た。これらのことは日本
と全く異なった文化であると考え、価値観の違いは
これらの要素から生まれてくるのだと理解した。

現地では、表1のスケジュールで行動した。

表1 プログラムの現地スケジュール

| | |
|------|---|
| 8/29 | 鈴木栄光堂ベトナム工場の見学 ベトナム企業の見学・従業員との交流 |
| 8/30 | ハノイ工業大学の学生との交流・PBL（アン ケート作り） |
| 8/31 | PBLの終了と発表（2回） |
| 9/1 | 戦勝記念博物館等訪問など |
| 9/2 | WASABICREATION 社での講演会 |
| 9/3 | NTU（南洋理工大学）での各種プログラム |
| 9/4 | Google 社訪問 ビジネスパーソン（4名）との交流会 加藤順彦氏による講演 |

2. 参加目的

私がこの ASEAN グローバルプログラムに参加し
ようと思った理由は2つある。

1つ目は、英語力の向上である。近年のグローバ
ル化により英語を話せるのが当たり前になっている
と感じている。一方で、英語を話すこともできない
自身に危機感を感じた。

2つ目は、日本以外の海外の国の文化や生活に触

れてみたいと考えた事である。また、海外から日本
はどのように見られているのかを知りたかったから
である。他の国の文化や生活に触れることで価値観
の違いを知ることができると考えたのである。

3. 日本人ビジネスパーソンとの交流会

この ASEAN グローバルプログラムの中で、特に
シンガポール在住の日本人ビジネスパーソンとのト
ークセッション、およびその後行われた加藤氏の貢
献会について報告する。

日本人ビジネスパーソンとのトークセッションで
は、現地のビジネスマンや起業家や投資家との交流
ができ、質問を行う機会があった。そのビジネスパ
ーソンの方々から、海外で働くことは非常に大変だ
が充実感があるものだという話を聞いた。また、
すべてのビジネスパーソンが共通しておっしゃって
いたことが、海外で働くときには英語が大変である
が、どんなことにも挑戦することがより大切である
ということ、後悔しないように人生を送ってほし
いとおっしゃっていた。このメッセージを受け取
り、私は留学などにも取り組み、挑戦することや英
語をもっと身近なものにしたいと感じた。ビジネス
パーソンの方々には、学生の頃の経験が今につなが
っているとおっしゃっていた。また、学生のときに
経験したことがきっかけとなって海外で働くこと
になったとおっしゃっていた方もいた。これらのこ
から私は、日々を堕落して過ごさず、毎日少しでも
成長を感じるような生活を送りたいと決心した。

交流会の後には、起業家、個人投資家として有名
で、著書もある加藤順彦氏による講演会が行われ
た。加藤さんからさまざまな刺激を受けることが
できた。例えば、おもしろさを求めることや挑戦する
精神などだ。加藤さんは、意識・環境・個性・仲間
の4つのキーワードを挙げられ、これらが最も大切
であるとおっしゃっていた。私は、この話を聞いて
自分に足りないものは何であるか再認識するこ
うできた。



写真1 ビジネスパーソンとの交流会の風景
(4名の方を学生数名が囲んで交流や質問をした)



写真2 加藤順彦氏の講演会での質問時間

4. おわりに

私は、この ASEAN グローバルプログラムに参加して、様々なことを得ることができたと感じている。ベトナムでは、ベトナムの交通事情や季候に触れることで、ベトナムの人々がどのような生活をしているのかが、日本で文字情報を読むより肌で実感して理解できた。また、シンガポールでは、様々な物が輸入品であるから物価が高くなっていることや、様々な国の人が暮らしていること、またそれ故に言語も含めて常に国際感覚が養われる環境であることが分かった。

本報告書では記載していないが、ベトナム工業大学や NTU の現地の学生と交流して、自分の英語が全く通じない事を痛感した。英語で話すことができない分、ジェスチャーで伝えるという工夫をして乗り切ったが、言いたいことを伝えるのに非常に苦労した。また、様々な企業の訪問を行う機会もあったが、現地のビジネスパーソンと交流する中で、海外で働くことのメリットやデメリットなど知ることができ、海外への興味が以前より増した。

今回のツアーは、様々なトラブルも含めてどのプログラムも非常にいい経験となり、日本に帰国した後に生かせるようなことがたくさんあり、学びが多かったと感じており、いい経験になった。